『いとこ同志』

1959年／フランス／クロード・シャブロール監督作品

マザコン法学徒の失恋物語

会員 高橋 辰三 (62期)

マザコンで田舎者の主人公がパリ暮らしに慣れて
いるもう一人の主人公である従兄弟のアパルトマン
を訪れるところから物語がスタートする。

純朴で不器用な青年シャルル（ジェラルール・ブラ
ン）は、遊び人の同居人ポール（ジャン＝クロード・
ブリアリ）にパリを案内されるなかで出会った女
フロランス（ジュリエット・メニエル）に魅かれる。
しかし、シャルルの初恋はうまくいかない。シャル
ルは失恋にくじけず、法学士の試験に合格すると
の母との約束を実現するため、毎晩のように乱痴気騒
ぎをする従兄弟を横目に勉学に打ち込む。様々な誘
惑を我慢して、勤勉に過ごしたシャルルを知る友は
皆、シャルルが合格するに違いないと信じていたが、
そううまくはいかない。

勤勉に見えるシャルルが試験に落第したのは、
様々な理由が考えられる。一つには、同居人が毎日
のように遊び呆けていたからかもしれないし、ある
いは失恋のせいかもしれない。シャルルが真面目で
あったことには違いないが、机についても学問書
を開かずに母に手紙を書いていたたり、バルザックを
読んでいたせいなのかもしれない。しかし、この主
人公が落第した一番の理由は、運の無さに尽きるだ
ろう。

運の良い者と運の悪い者は、その運命に従い人格
が造られていく。この映画でのシャルルは本当に運
の悪い男で、上京してから良いことなんてほとんど
なかったのではないかと思えてくる。運の良い星に
生まれついたポールから「君の輝かしい未来が妬ま
しいほどだ」と言われても、皮肉にしか聞こえない。

運というのは、人の人生のかなりの部分を決め
ているというのが私の考えだ。しかし、この「運」
という偶然は、一瞬にして逆転が起こるものでは
ある。監督のクロード・シャブロールは、逆転から
起こるドラマを文字通り劇的に描くのを得意とする
映画作家だった。本作において、2人の対照的な
男の人生の転機をドラマティックに盛り上げるの
は、映画のBGMであり、実際にポールがレコード
に針を落とすワーグナーである。

本作は、シャブロールの第二作目なのだが、処女
作「美しきセルジュ」でも、同じくジェラルール・ブ
ランとジャン＝クロード・ブリアリを主役に起用し
ている。シャブロールは、この2本の鮮烈な作品で
まさに新しい時代の映画の先鞭をつけた。この若い
映画作家が映画界に新しい波を起こすことができ
たのは、一つには素晴らしい俳優達や製作を支え
る才能ある仲間恵まれたからであり、または、相
続により製作費を手にするという幸運があったから
なのだろう。しかも、シャブロールは、本作で起用
したステファーン・オードランと後に結婚までして
いる！

シャブロールは2010年に80歳で他界したが、
私はこれほどまでにスリルあふれる作品を多く残し
た監督を知らない。そして、私がこの映画に出会
ったのが司法試験の合格発表待ちの時期で、この
巨匠が亡くなる前にこの作家、この作品に出会う
ことができたのは本当に素敵な偶然だった。そん
な素晴らしい出会いが皆様にもあることを願っ
ている。